

## 令和4年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

### 成果報告書

団 体 名	パレット市民劇場・那覇市民ギャラリー指定管理者パレットグループ	
施 設 名	那覇市パレット市民劇場（パレット市民劇場）	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	1,769	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,769 (千円)

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フレッシュコンサート～ はじめてのコンチェルト vol.2～	9月18日	演目：ソリストの選曲 小学生～高校生ソリスト5名 琉球交響楽団	目標値	参加者数 30名、入 場者数175 名
		パレット市民劇場		実績値	参加者数 14名、入 場者数112 名
2	太鼓で遊ぼうウチナー音 でちむどんどん♪♪～ウ チナー版ブレーメンの音 楽隊の巻～	2月4日	演目：ウチナー版「ブレーメン の音楽隊」 出演者：阿嘉修、嘉数道彦他	目標値	入場者数 175名
		パレット市民劇場		実績値	入場者数 340名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>パレット市民劇場は社会的役割を果たすべく次の2点に注力しており、予定に沿って R4 年度は2事業を実施しました。</p> <p>①市民・県民に対して、質の高い実演芸術の観賞機会を提供すること。 沖縄は離島県という地理的条件により、多様且つ高水準な実演芸術が興行されにくい状況にあります。加えて、平均収入の低さもあり、実演芸術に興味を持つ機会、鑑賞する機会を得ることが難しい住民もいます。これらの状況の解消に寄与すべく事業を実施しています。</p> <p>②市民・県民に対して、実演芸術の普及啓発を行い、興味を持つ若年層を増やすこと。 固定化されたファン層に加え、老若男女問わず広い層が、実演芸術に対する興味を持つよう普及啓発に取り組んでいます。人々の興味が分散しがちな現代において、劇場に足を運ぶ「きっかけ」を提供し、若年層からの実演芸術に携わる人材の発掘に寄与し、実演芸術の未来をより豊かなものにしていきます。</p> <p>◆事業1：クラシック音楽分野「フレッシュコンサート～はじめてのコンチェルト vol.2～」 小学生～高校生がソリストオーディションを経て、地元のプロオーケストラをバックにソリストとして演奏するプログラム。音源審査：6/22、本選7/2、コンサート開催日：9/18</p> <p>◆事業2：沖縄の芸能分野 「太鼓で遊ぼうウチナー音でちむどんどん～プレーメンの音楽隊の巻～」 観客は、客席に座ったまま沖縄の太鼓の奏法を実演家のレクチャーとイラスト動画の譜面を見ながらゲーム感覚で練習を行い、歌舞劇の地謡演奏に参加する他、伝統舞踊を鑑賞することを通して、伝統芸能を能動的に楽しめるプログラム。 開催日：2/4</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>◆文化的意義意義 本事業により、劇場へ鑑賞に来館する年代層が若年層への拡大が認められます。 平成30年度までに開催した主催事業チェコフィル奏者による室内楽コンサートや、バリ舞踊と琉球舞踊のコラボレーション公演、アルゼンチンタンゴ公演等では、10代以下の観客は来客全体の10%未満であったが、本助成を受けた2事業は、それぞれのシリーズ1回目として開催したR3年公演から10代以下の来客が全体の10%を超え、R4年度フレッシュコンサートでは27%、ウチナー音でちむどんどんでは15%であり、若年層の舞台芸術への興味の振興に継続して寄与できていると捉えられます。</p> <p>◆社会的意義 2事業ともに、気軽且つ能動的に実演芸術を楽しめる仕組みを作っています。 フレッシュコンサートのオーディション参加者は、好きな協奏曲を演奏曲とし、選出されたソリストはオーケストラと数回の練習ができるため、プロの演奏家と親しみをもちつつ意欲的に技術を高め、その先の活動の礎となりうる貴重な体験ができます。前記主旨の感想が、公演後の座談会にてソリストたちからも発言がされました。ウチナー音でちむどんどんでは、身近なゲームを取り入れることにより、若年層が芸能に興味を持つきっかけとなりやすいうえ、公演中のワークショップのみで演目に参加でき、学生や社会人も気軽に参加できます。また、観客全員が客席から演奏参加可能な仕組みにより、会場全体の一体感を味わい、劇場で鑑賞する楽しみを促進させることができます。シリーズ3回目の今回の公演ではチケットが完売し、普及が進みつつあると捉えています。</p> <p>◆経済的意義 2事業ともにシリーズ1回目から、地域住民が気軽に参加、鑑賞可能な料金設定を続けています。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

当劇場のビジョンは「地域住民が『パレット市民劇場』を自分たちの文化施設として慣れ親しみ、そこから発信される芸術文化に興味や感心を深め、新たな活動が生まれる『皆で育む地域の文化芸術広場』であること」です。そのビジョンを実現し続けるために、多様な生活スタイルの人々、広い年齢層が実演芸術に興味を持ち、劇場に足を運ぶ人の層を厚くすることを目指し、3つの要素を組み込んだ普及啓発事業を行いました。

- ①若年層が親しみやすい要素。
- ②気軽且つ能動的に、実演芸術に関わることができる要素。
- ③地域に根差した育成の要素。

当該普及事業の数値目標として次の3点を目指しましたが、1点を除き未達成の結果となりました。

目標①普及啓発事業における10代の入場者率を平均25%まで向上させる。

結果：アンケート回答者では10代割合13%、販売したチケット区分での2事業平均の高校生以下割合は22%。

目標未達成。

目標②ソリストオーディションへの参加者数を20%増加させる。

結果：参加者14名で、前回比較46%減。目標未達成。

目標③参加型芸能プログラムへの来場者数を30%増加させる。

結果：前回来場者179席中132名、今回来場者数367席中340名、157%増。目標達成。

	前回実績	令和4年度目標		令和4年度実績		結果
ウチナー音でちむどんどん♪ アンケート回答者から見る10代の率	18%	20%	平均 25%	8%	平均 13%	未達成
フレッシュコンサート アンケート回答者から見る10代の率	29%	31%		18%		
フレッシュコンサート オーディション受験者数	26名	31名	20%増	14名	46%減	
ウチナー音でちむどんどん♪ 満席に対する来場者率	74%	94%	20%増	93%	19%増	
フレッシュコンサート 満席に対する来場者率	97%	98%	1%増	32%	65%減	

アンケートでみる2事業平均の10代の割合は13%ですが、チケット販売数における高校生以下区分は2事業平均22%と善戦、「ウチナー音でちむどんどん」単体では23%と、チケット区分では目標を達成しました。

「フレッシュコンサート」では、オーディション受験者数、来場者率とも減少しました。受験者数減少の要因としては、小学生から高校生の楽器演奏者層が予測より浅く、R3年度 vol.1 との連続開催により参加希望者が伸びませんでした。来場者率減少においては、敬老の日のコンサート開催により、他公演が県内各所で開催され、観客が分散してしまったことが挙げられます。

参加型芸能プログラム「ウチナー音でちむどんどん」では、満席に対する来場者数の目標には1%届きませんでしたが、チケットは完売しました。チケット完売後の来場率は、運営側ではコントロール不可能のため、満席に対する来場者数率も良好な結果と捉えています。

次回以降のフレッシュコンサートについては、隔年開催の検討と、公演日の見直しを行い、参加者、鑑賞者人数の上昇を計ります。ウチナー音でちむどんどんについては、基本形を更に改良を続け、チケット完売の維持と、若年層への一層のアピール強化に努めます。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◆事業1：フレッシュコンサート： 要望書提出時の日程 → 実施日の順に記載。

音源審査締切7月 → 締切6月18日※5月1日頃からチラシ配布・SNS等広報開始

オーディション本選8月 → 7月2日…ソリスト決定

コンサート9月～10月 → 9月18日 ※7月25日頃から広報開始

日程の決定には、次の点を考慮しました。

- ①オーディション本選・公演日とも、学生ソリストの他の演奏コンクールと日程が重ならないこと。
- ②コンサート翌日が休日であり、学業に影響を及ぼさないこと。
- ③共演する交響楽団の年間活動日程とのスケジュール調整。
- ④R3年度の同公演の客席数の半数制限開催から、R4年度は客席数制限なしのコンサート開催のため、観客数の動員上昇が必要であり、コンサート開催の広報期間を可能な限り長くとること。

音源審査の締切と本選の日程を、要望書より2週間～1ヶ月早く実施しましたが、オーディション参加者は自身の好きなコンチェルトを選び、日頃より練習を積んでいる自信のある曲で参加するため、大きな影響はなかったと思われます。また応募期間1週間における駆け込み応募や、締め切りについての相談の問い合わせはありませんでした。よって、コンサートの広報期間を長くとることが出来た事業期間は、適切だったと捉えています。

◆事業2：太鼓で遊ぼう！ウチナー音でちむどんどん

要望書計画通り2月に開催し、チケットが完売しました。よって、広報期間含め事業期間が適切であったと考えられます。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

概ね当初の計画通り進み、適切な事業費積算でした。

要望書記載の収入予算における入場料においては、要望書提出時の客席半数制限から制限を緩和したため、予算より収入増となりました。支出予算4801千円に対し決算額5,068,340円で、268,340円(約5.6%)増でした。

収入	要望書予算額(円)	決算額(円)	増減額(円)	決算額/予算額
オーディション受験料	60,000	28,000	△32,000	46.7%
入場料(フレコン・ちむどん)	521,000	778,000	257,000	149.3%
配信視聴料(フレコン・ちむどん)	50,000	62,500	12,500	125.0%
自己負担額(助成対象)	2,301,000	2,126,869	△174,131	92.4%
自己負担額(助成対象外)	99,000	303,971	204,971	307.0%
活性化事業補助金	1,769,000	1,769,000	0	100.0%
合計	4,800,000	5,068,340	268,340	105.6%

支出	要望書予算額(円)	決算額(円)	増減額(円)	決算額/予算額
出演・音楽・文芸費・委託費(演奏委託費含む)	2,989,000	3,163,348	174,348	105.8%
舞台・運搬・会場費	740,000	735,120	△4,880	99.3%
旅費・謝金・宣伝費等	972,000	865,901	△106,099	89.1%
助成対象外経費	99,000	303,971	204,971	307.0%
合計	4,800,000	5,068,340	268,340	105.6%

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

各事業で果たした文化拠点機能

#### ◆事業1：フレッシュコンサート～はじめてのコンチェルト vol.2～

「小中高生が、プロのオーケストラとソリストとして共演する」という希少な機会を提供することにより、小学生から中高年までの広い年齢層へのクラシック音楽の普及啓発機能と、演奏家を目指す地域の小中高生の育成機能。

この普及啓発と育成の機能を発揮するために、以下の点を事業に取り入れました。

- ①甲子園をはじめとする生徒児童の部活等の大会応援に熱心な地域性にヒントを得て、「若きソリストを応援する」という観点から、クラシックに興味の薄い層にも公演を鑑賞するきっかけづくりとする。
- ②演奏練習に励む小中高生が、「ソリストとして地元のプロオーケストラと共演する」という「身近かつ明確で、楽しみとなる目標」を持ち、演奏を楽しみ、音楽への理解を更に深める機会を提供する。
- ③音源予備審査を含めオーディション参加者全員に、プロの演奏家からの講評を伝えるほか、ソリスト選出者は複数回オーケストラとの練習を実施する等、参加者に対し、きめ細かく丁寧な対応を行うことにより参加者の演奏技術向上に寄与する。
- ④有料公演として、観客の前でプロオーケストラをバックにソロを演奏し、実演家として舞台に立つことにより、演奏人生の礎となる経験を提供する。
- ⑤同世代の活躍を知ることで、小中高生が楽器演奏に興味を持つきっかけづくりとする。

#### ◆事業2：太鼓で遊ぼう！ウチナー音でちむどんどん～ウチナー版ブレイメンの音楽隊の巻～

伝統芸能が敬遠されがちな要因の一つである「難解なイメージ」を払拭する内容の公演を制作し、広い年齢層が興味を持つきっかけをつくとともに、沖縄の芸能に対し一段深い理解を及ぼす普及啓発機能。

この普及啓発機能を発揮する方法として、以下のことを事業に取り入れました。

- ①伝統楽器の奏法をゲームを交えて紹介し、伝統楽器に親しみをもちつつ、芸能への一段深い理解を及ぼす。
- ②「鑑賞、ワークショップ、演目への演奏参加」を1回の公演内で提供することにより拘束時間を短くし、学生や社会人を含む全年齢層への気軽な演奏体験機会を提供する。
- ③「鑑賞」という楽しみ方に加え、「演目に能動的な関わりを持つ」楽しみ方を提供し、芸能への親しみを促進する。
- ④観客全員参加型プログラムによって、観客と演者、観客同士の一体感をはかり、劇場で空間を共にして鑑賞する時特有の楽しみ方を提供する。

助成を受けたことによって、R3年度から連続して、1年の内に西洋音楽のクラシック分野と伝統的地域芸能分野の2つの分野で自主企画公演の実施が可能となりました。「フレッシュコンサート」はR4年度公演がR3年度公演につづく2回目の実施、「ウチナー音でちむどんどん」は、R2年度、R3年度に続きシリーズとして3回目の実施であり、連続した開催によって地域に同シリーズが根づく足がかりを築くことができました。また「ウチナー音でちむどんどん」シリーズでは、R3年度公演、R4年度公演に新作の琉球芸能歌舞劇の創作を依頼することが出来、親しみやすい新たな物語を世に送り出し、演目数の増加という面からも地域芸能の活性化に寄与することができました。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

2事業ともに、若年層から高年層まで全ての年齢層が実演芸術に興味を持つきっかけとなる仕組みを、公演内容に取り入れています。特に若い世代への興味喚起材として、「フレッシュコンサート」では同年代がプロのオーケストラとともに活躍するという点を備え、「ウチナー音でちむどんどん」では、ゲームを入口に沖縄の伝統楽器の奏法を体験できるプログラムと、誰もが知っている童話を題材にした歌舞劇に、沖縄の伝統的な音楽や方言を取り入れるプログラムを備えました。若年層～青年層は実演芸術を実演家として担う可能性と、鑑賞者として支える両方の可能性があります。多様なエンターテイメントがあり興味が分散する現代社会の中で、若者が地域の伝統芸能を含めた実演芸術に親しみをもちやすくする事業を行い、エンターテイメントとして支持されることにより、現在に加え未来の実演芸術の振興にもつながると考えられます。

当該2事業においては、鑑賞者アンケートやチケット販売実績から、観客の若年層への拡大が見てとれます。平成30年度までに開催した自主企画公演のチェコフィル奏者の室内楽コンサートや、バリ舞踊と琉球舞踊のコラボレーション公演、アルゼンチンタンゴ公演等では、10代以下の観客は来客全体の10%未満でした。一方、この2事業の観客は、それぞれのシリーズ1回目として開催したR3年公演から10代以下の来客が全体の10%を超え、R4年度フレッシュコンサートでは27%、ウチナー音でちむどんどんでは15%であり、若年層の実演芸術への興味を喚起していると認められます。

来場者アンケートでは「フレッシュコンサート」においては、若いソリスト達の演奏に技術面にや熱意に感嘆する声や、応援するメッセージとともに、本企画を若手奏者の登竜門として応援する言葉、共演する琉球交響楽団の試みをほめたたえる言葉が多くありました。「ちむどんどん」では、子供も一緒に楽しめた、楽しく伝統芸能を学べるのが良い、方言はわからなかったが楽しめた、方言がわからず楽しめないところがあった、客席と舞台の一体感が楽しい、等多くのコメントがあるなかで、「次も楽しみにしている」が最多であり、公演継続への期待が伺えました。

地域における反響は、沖縄タイムス社、琉球新報社の記事掲載、「フレッシュコンサート」の琉球放送局の放送（2022/10/13）、「ウチナー音でちむどんどん」の沖縄テレビ局の放送（2023/2/14）にもあられました。放送では、演目の様子、客席の様子に加え、フレッシュコンサートのソリストの日常での練習風景、部活仲間のコメント、観客の生の声、実演家の舞台に込めた思いが放送され、公演の生き生きとした雰囲気と演奏者・演者への親しみやすさを伝える内容でした。このように地域メディアが注目するシリーズになったことにより、これらの公演の実施が、実演芸術の鑑賞未経験者を含めた読者、視聴者に臨場感をもって伝わり、地域の実演芸術の活性化につながると捉えています。

また、自主企画としてクラシック分野と沖縄の伝統芸能分野の2つの分野に注力することは、パレット市民劇場の稼働率面からの更なる活性化のための広報も目的としています。当劇場における平成3年年度～令和4年度からのジャンル別利用件数の積算の割合では、西洋音楽のクラシック分野が約50%を占め、次いで講演会が11%、芸能分野9%、演劇8%と続きます。そのなかで、芸能は平成25年度には15%程度でしたが令和4年度は6%と減少しています。貸館の主力であるクラシック分野と、利用割合の3番に位置するが減少傾向の芸能分野において地域の注目を集める自主企画を開催することは、各分野での劇場の認知度が上昇し、貸館事業においてもそれぞれの分野の利用件数上昇が見込まれ、地域の文化施設としてますます活気づくことが期待できます。

以上のとおり本事業は、実演芸術の若者への興味喚起、充実した広報につながっており、地域の文化芸術の発展に寄与していると思われれます。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ◆事業目的

若年層の演奏者としての育成、若者を含めた全年齢層へのクラシックコンサート鑑賞の楽しさの普及  
若者への実演家への道の興味喚起、琉球芸能の若者への普及

#### ◆事業運営・人事戦略について

運営は、アートマネジメント責任者を含む施設職員5名にて担いました。公演内容についての出演者との協議・制作、広報面におけるチラシ・ポスターのデザイン制作、送付作業、各SNSにおける情報発信等を施設職員で完結することにより、迅速且つ、効率的な運営を行いました。この運営方法により事務経費・広報経費を抑え、事業費の62%を出演料・演出料に充て、充実した出演者を招聘し、上質な公演内容を実現しました。また、公演当日の受付には、沖縄県立芸術大学の音楽学部学生をアルバイトとして起用し、公演運営の現場を知る機会を提供し、劇場運営への興味喚起を促し、未来のスタッフ候補者育成を試みています。

#### ◆経営戦略について

予算におけるチケット料収入は2事業費に対して約11%、フレッシュコンサート事業費に対して、オーディション参加費は2.5%を計画し、実績はチケット料収入15.4%、オーディション参加費1.2%でした。

客席数391席という小規模施設での開催条件の中で、平均所得の低い沖縄県においても気軽に鑑賞、参加しやすい料金を設定するために、助成金を活用しました。特に高校生以下のチケット料は、フレッシュコンサート：500円、ちむどんどん：1,000円と抑えた価格に設定し、若年層への普及を行い、未来の実演家、実演芸術ファンの育成につなげることを目指しています。若年層における実演芸術のファン数を獲得することにより、未来も含めた実演芸術事業の安定に寄与することを目指しています。

また、本事業は小規模劇場の魅力である舞台と客席が近い点を最大限に活かしています。フレッシュコンサートにおいては、奏者の表情が見えることによってソリストへ応援の気持ちを抱きやすい鑑賞環境となり、ちむどんどんでは、客席からの演奏参加中に舞台と一体感を感じやすい環境です。施設の特性を活かした公演を観客と実演家双方に示すことにより、貸館事業に対する当施設の魅力発信にもつながり、施設運営の安定化にも寄与することを期待しています。

#### ◆ネットワークの構築について

事業は、パレット市民劇場と琉球交響楽団、パレット市民劇場と琉球芸能の実演家と、実演芸術振興の目的が一致したために協力体制の構築が可能となった上で、劇場が出演料・演出料を予算確保できたことにより実現しました。劇場のマネージメント担当者は、実演家たちへの出演委託の範囲にとどまらず、制作のための意見交換を行い、公演練習においても密にコミュニケーションをとることにより、運営スタッフと演出・出演者が事業の目的を共有し、実行を可能としました。終演後には、反省点と次回への改良点について意見交換を行い、事業の持続に向けて良好な関係を築いています。

#### ◆改善点と組織的事業継続について

事業計画と実行内容の隔たりはなく、目的に沿った事業を実施できました。課題点は、フレッシュコンサートのオーディション参加者と観客数の減少を増加に転じさせることと、安定した事業費確保です。フレッシュコンサートの参加者減少、観客減少の要因は、高校生までの楽器奏者層が予測より浅かった点と、事業の認知度の浅さが挙げられます。この2点を解消するために、隔年開催にて継続実施し、地域への定着を計ります。

加えて、地元メディアからの注目を活用し、地元企業の協賛を募り、広報力の強いテレビ放送における告知力と安定した事業費の確保を行い、地域の実演家団体とともに事業継続を目指します。